Green Brave

＃52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2

2025 年 10 月 25 日（土）～26 日（日）

BRIDGESTONE SuperTaikyu JapaneseEnduranceRace ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2025 Empowered by BRIDGESTONE 第 6 戦

スーパー耐久レース in 岡山 岡山国際サーキット（岡山県美作市）

■ラスト 2 周で 3 位に上がり 3 年連続チャンピオン獲得■

決勝結果（ST-Z クラス）
＃52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2
松井宏太／吉田広樹／服部尚貴／野中誠太
決勝 3 位（106 周、3 時間 01 分 10 秒 094）
予選 3 位（合算タイム：3 分 12 秒 911）

第 6 戦のレース時間は 3 時間。ランキングトップの GR Supra には性能調整の一環として、80kg のウエイトが搭載されています。土曜日（予選日）の天候は曇。午前中に雨が降る時間がありましたが、午後の A、B 両ドライバーの予選はドライで行われました。A ドライバーの予選では、Green Brave 初レースの松井選手がコースイン。「攻め過ぎた」というものの、4 周目に 1 分 36 秒 788 をマークし、5 位につけました。B ドライバーの予選では、吉田選手が 4 周目に 1 分 36 秒 123 をマークし、3 位。両ドライバーの合算タイムにより、GR Supra 最上位の予選 3 位を獲得しました。日曜日（決勝日）の天候は曇。3 時間の決勝中、2 回の給油を伴うドライバー交代義務があるため、チームは吉田選手をスタートドライバーに起用。最初の 1 時間半を吉田選手、タイヤ交換を挟んで次の 1 時間を松井選手、タイヤ無交換で最後の 30 分を野中選手に託す計画で、服部選手はピットで 3 人のサポート役に徹します。

決勝は 13 時 32 分にスタートがきられ、吉田選手は 3 位をキープして 1 周目を終了。序盤は予選 1 位の#34 アウディが逃げ、予選 2 位の#26 日産 Z が追う展開です。吉田選手は前の 2 台についていくことができず、徐々に後退。4 位の#22 ポルシェは 5 秒ほど離れており、淡々と周回を重ねます。スタートから約 50 分が経過した 30 周目、コース上にストップするクルマがあり、フルコースイエロー（FCY）導入。#22 ポルシェと#20 日産 Z がタイミング良くピットに入ります。31 周目に FCY が解除されますが、すぐに別のクルマがコースアウトしたため、チームは 2 回目の FCY 導入を予測。予定より早い 31 周目の終わりに吉田選手を呼び戻します。松井選手が乗り込み、店舗メカニックが給油とタイヤ 4 本交換を素早く行い、ピットアウト。しかし、FCY は導入されず、松井選手は 8 位でコースに復帰します。

A ドライバー（ジェントルマンドライバー）の松井選手には 1 時間の乗車義務があり、チームの指示を受けながら力走。35 周目、上位のピットインにより 7 位に浮上します。45 周目、後方から追い上げてきた#25 日産 Z に抜かれ、8 位に後退。しかし 47 周目、上位のピットインにより 7 位に復帰します。さらに 60 周目から 65 周目にかけて、上位 3 台が相次いで 2 回目のピットインを行ったため、松井選手の順位は 4 位へ。そして走行開始から 1 時間が経過した 67 周目、松井選手がピットイン。野中選手に交代し、作戦通り給油のみのタイヤ無交換でピットアウトします。コースに復帰した野中選手の順位は 5 位。残り時間は予定より長い約 1 時間となっており、摩耗の進むタイヤをマネージメントしながら、チェッカーを目指します。71 周目、上位のリタイアにより 4 位へ。3 位は B ドライバーが乗る#20 日産 Z で、野中選手は 2 秒以下の間隔で走行を続けますが、80 周を過ぎたあたりから、徐々に離されていきます。しかし、#20 日産 Z が 2 位の#34 アウディに追いつき、残り 13 分で前に出ると、今度は野中選手と#34 アウディの差が急速に縮まっていきます。ランキング 2 位の#885GR Supra がリタイアしているため、このままチェッカーを受けてもチャンピオンは確定ですが、野中選手はあきらめることなく追走。そして残り時間わずかとなった 105 周目、アトウッドコーナーでオーバーテイクを成功させると、106 周目にチェッカー。最後の最後で 3 位表彰台をつかみとり、3 年連続チャンピオンを獲得しました。

©2025 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.

■DRIVERS VOICE

松井宏太選手

自分のペースを作らせてもらい、服部さんやチームが遠隔で指示をくれたので、本当に落ち着いて走ることができました。タイヤを使い過ぎて、野中選手に負担をかけてしまったところはあるのですが、最終戦に向けていい形でつなげられたと思います。本当に皆さんに助けてもらいました。予定より少し早いタイミングでしたが、いろんな作戦を考えていたので、いつでも乗れるように準備をしていました。ぼくはそこに居させてもらっている状況なので、チーム全体の力が本当に大きいと思います。

吉田広樹選手

最後抜かなくてもチャンピオンはとれていたのですが、表彰台に登ると登らないとでは全然違います。タイヤ無交換で誠太がきつかったと思いますが、最後までいい走りしてくれたので、そのおかげです。トラブル車両があり、FCY やセーフティーカーが入る可能性があったので、そこを逃さないようにちょっと早めに戻ったのですが、結果としてあまり良くはない方に働きました。それでもチーム力で耐えてくれたので良かったです。まだ最終戦があるので気を引き締めて戦いたいと思います。

服部尚貴選手

今大会でチャンピオンを決めるつもりで挑みました。僕は 3 人のサポート役で、すべての作戦がうまくいった訳ではないですが、最後のラスト 2 周で、誠太が前に出られて良かった。ST-Z クラスで 3 連覇できるなんて、こんな素晴らしいチーム本当にないと思います。決して簡単なチャンピオンへの道のりではなかったですが、すべてのレースで表彰台、要は今シーズン、どのレースでもクルマが壊れなかったということです。みなさん、埼玉トヨペットにクルマを買いに来てください。

野中誠太選手

最後の#34 アウディの追い抜きは、アトウッドコーナーで前がブロックラインを通り、コーナーの立ち上がりで遅れたので、クロスラインを使いオーバーテイクできました。去年に続いて今年もチャンピオンを取ることができ、すごくうれしいです。80 キロのウエイトを積んで走っていたので、タイヤは相当きつく、ロングのペースはだいぶ苦しかったのですが、最後まで集中して走り切りました。現地にもたくさんのファンが応援に来てくれて、本当に力になりました。みなさんのおかげです。

ST-Z クラス　決勝結果

順位	チーム	周回数
1 位：	#26 raffinee 日産メカニックチャレンジ Z NISMO GT4（日産 Z NISMO GT4）	107 周
2 位：	#20 NANIWA DENSO TEAM IMPUL Z（日産 Z NISMO GT4）	106 周
3 位：	**#52 埼玉 GB GR Supra GT4 EVO2（トヨタ GR Supra GT4 EVO2）**	**106 周**
4 位：	#34 TECHNO FIRST FUNDINNO R8 LMS GT4（アウディ R8 LMS GT4）	106 周
5 位：	#5 マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2（トヨタ GR Supra GT4 EVO2）	105 周
6 位：	#315 Prime Racing Supra GT4 EVO（トヨタ GR Supra GT4 EVO2）	105 周

出走 11 台 トップ 6 まで

ST-Z クラス　ポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1 位	**52**	**埼玉 Green Brave**	**131**
2 位	885	SHADE RACING	84.5
3 位	26	TEAM ZEROONE	84
4 位	25	TEAM ZEROONE	77
5 位	20	TEAM IMPUL	54.5
6 位	22	PORSCHE TEAM EBI	52

上位 6 位まで

次戦予告　11 月 15 日～11 月 16 日 富士スピードウェイ

Green Brave PARTNERS

赤城車体工業株式会社
株式会社アルシェ
株式会社エイテック
株式会社 FM NACK5
株式会社岡崎巧芸
株式会社カーグラス・JP
埼群スリーボンド株式会社
株式会社三和広告社
JU 埼玉オートオークション株式会社
株式会社西武ライオンズ
ティーズ・ワークス
株式会社デンソーソリューション
東京キリンビバレッジサービス株式会社
トヨタホーム東京株式会社
トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社
富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
有限会社 MY CARS
マックメカニクスツールズ株式会社
丸和工業株式会社
Mechanix Wear LLC
株式会社リビコー

©2025 Saitama Toyopet co.,Ltd All Rights Reserved.